「第 7 回抗菌薬適正使用に関するセミナー」趣旨

【活動目的】

学会会員を対象とした抗菌薬適正使用支援チーム（antimicrobial stewardship team：AST）に関する教育

【活動趣旨】

2020 年より継続している本セミナーは、抗菌薬適正使用支援に必要な基礎知識と、臨床現場で AST の一員として活動するために必要な共通の知識を習得することを目的として開催してきました。第 7 回となる今回は、これまでのセミナーで得られた経験や参加者からの意見を踏まえ、基礎から実践へとつながる、より参加者のニーズに即した内容を目指します。

わが国では「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023–2027）」のもと、抗菌薬の適正使用が引き続き重要な課題となっています。さらに、2026 年には「抗微生物薬適正使用の手引き 第四版」が公表され、外来・入院診療に加え、薬剤耐性菌感染症を含めた抗菌薬適正使用の考え方が改めて整理されました。抗菌薬を単に「減らす」ことを目的とするのではなく、感染症を適切に診断し、必要な患者に、適切な抗菌薬を、適切な用法・用量・期間で使用することが、これまで以上に求められています。また、抗菌薬適正使用を実践するためには、薬剤の知識だけでは十分ではありません。患者の症状や感染臓器を捉え、想定される微生物を考え、微生物検査の結果を適切に解釈し、その情報を抗菌薬の選択や投与設計につなげる一連の思考が必要です。そのためには、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など、それぞれの職種が専門性を発揮するとともに、共通の視点を持って連携することが重要です。

そこで第 7 回では、「抗菌薬の薬理・体内動態」「微生物検査」「感染症診療」「抗菌薬の選択」について、共通するテーマを通して関連づけて学べる構成を企画しました。1 つの抗菌薬をテーマに、薬理学的特徴、対象となる微生物、検査結果の読み方、感染症診療における位置づけ、実際の抗菌薬選択までを各講義でつなぎ、最後に症例を通して理解を深めることを目指します。さらに今回は、参加申込時に「日常の感染症診療や AST 活動で困っていること」「講師に聞いてみたいこと」などをお寄せいただき、可能な限り講義の中で取り上げる新たな試みを予定します。講師からの講義に加えて、参加者の疑問をもとに、明日からの実践に役立つ“Tips”を共有できるセミナーにしたいと考えています。

本セミナーは、特定の職種のためのコースではありません。これから AST 活動に携わる方、ICT と AST を兼務している方、すでに AST 活動に取り組みながら基礎を改めて確認したい方など、抗菌薬適正使用に関わる医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師をはじめとするすべての職種を対象としています。

多職種が同じ場で学び、それぞれの視点を持ち寄ることができることは、本セミナーの大きな特徴です。第 7 回では、これまでの基礎を大切にしながら、「知識を学ぶ」ことから「知識をつなぎ、実践する」ことへと進んだセミナーを目指します。ご施設のメンバーもお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

「第７回抗菌薬適正使用に関するセミナー」スケジュール

10：00～10：10	総論 担当：森兼　啓太（山形大学医学部附属病院） AST に関する考え方、構成職種とそれぞれの役割などに関して、本コースの導入となる総論的内容を述べる
10：10～11：00	抗菌薬の薬理、体内動態、副作用 担当：西　圭史（日本大学薬学部） 各系統の抗菌薬の特徴を薬理や体内動態を交えながら、基礎的で重要なポイントに絞り難しくならないように述べる
11：00～11：10	休憩
11：10～12：00	微生物検査 担当：佐藤　智明（山王病院） 微生物検査室がない施設においても、抗菌薬適正使用に微生物検査を活用するため、微生物検査の流れと検査結果の読み方（解釈）について述べる
12：00～13：00	昼食
13：00～13：50	感染症診療の基礎 担当：細川　直登（亀田総合病院） 主訴や現病歴、身体所見から感染症のフォーカスや起因病原体の推定に至る、一連の感染症診療の流れを述べる
13：50～14：40	抗菌薬の選択 担当：池谷　修（慶應義塾大学病院） 抗菌薬のスペクトラム、薬剤耐性菌と抗菌薬、細菌検査結果に基づく抗菌薬の選択、感染臓器と抗菌薬など AST に必要な抗菌薬の選択について解説する
14：40～15：00	休憩
15：00～15：50	感染症に必要な統計、疫学 担当：丹羽　隆（岐阜大学医学部附属病院） プロセス指標、アウトカム指標につながる抗菌薬の集計法とこれらをいかに評価するかについて述べる
15：50～16：40	AST における看護師の役割 担当：四宮　聡（医療法人協和会） 看護師が、抗菌薬適正使用とどのように関係し、AST の一員として活動しうるのかについて述べる。また、AST 専従者の実際の活動内容についても触れる
16：40～17：20	総合討論 担当　小野　和代（東京科学大学病院）ほか